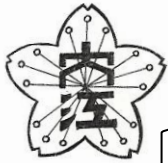


202

【重要】あす5年生は集団宿泊教室の参加同意書を配布します。「Q&A」も作成しましたのでご覧になり、来週提出をお願いします。宿泊を伴う学習は参加同意書をいただくことになっています。



# 大江の風

10月1日  
No.101



レベル4時の「家族が熱発の場合、児童生徒が出席停止になる」は解除されております。児童の毎日の健康観察は、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

## 10月は『実りの秋』

2年生の体育。ずいぶんたくましくなりましたね。

10月になりました。実質6月からスタートしましたので、子どもたちの学校生活は3か月間・・・つまり例年だと1学期の終わりくらいなのです。しかしどの学年もみても、その学年らしさというか、風格がでてきました。1年生の成長も著しいです。できるようになったことが増え、また集団を意識した生活ができるようになってきました。他の学年もそうです。自分よがりではなく、みんなのことを考え行動できるようになってきています。「9月はスロースタートで」を合言葉に、9月を教育相談月間とし、まずは子どもたちの心に寄り添い不安を軽くし、学校生活が明るくスタートできるように配慮しました。保護者の皆さまのご協力もあり、とても欠席も少なくみんなよく学んでいたのが安心しました。ありがとうございました。



さて10月です。ある教育新聞のコラムに次のようなことが載っていました。

不安を抱くことはマイナスではない。不安を抱かない方がマイナスである場合もある。学習の遅れを不安に思う人は多いが、学びの欠如を不安に思う人は少ないように感じる。「コロナ禍世代」はどんな学びを欠如してしまうのだろうか。不安に思えば対策を考えるが、不安に思わなければ対策も考えもしない。不安な気持ちを見つめ、向き合うことが大切である。不安でいっぱいの子どもたちは不安の二面性を語って聞かせたい。物事は全て正と負の両面がある。不安にも、負の側面だけでなく正の面もある。失敗への不安は成功を生む源。自己への不安は向上心の源。他者への不安は社会性を育む源。未来への不安は将来計画を作る源・・・となる。このように不安は大事な感情である。不安を感じている自分をそのまま認めれば、不安がさまざまなものを育む源であることに気づくことができる。子どもたちには不安と共生する知恵を身に付けてもらいたい。そのために大人は何をするか。その意思をコロナ禍から問われているような気がする。コロナ禍との知恵比べである。

子どもたちが生きるこれからの激動の時代は、不安が渦巻いていることでしょう。その不安は見方を変えれば様々な生きる力を育む源になることを、今、学校生活の中でも体験し、自信や自己肯定感・自己有用感が高めていけたらと思います。リスクレベルが2（警戒）に下がりました。10月は『実りの秋』。これからも感染拡大防止には細心の注意をはらい、コロナ禍においても教育活動がさらに充実できるように、職員一同知恵を出し合い頑張っていきたいと思います。引き続きご協力ご支援のほど、よろしくお願いいたします。

## 2年生で研究授業がありました

先生と役割演技をしました。僕になりきっていましたね。

道徳の授業でした。滑り台の順番待ちで初め割り込みされて怒る「僕」が自分のすぐ後ろならいいかなと思ったけど、他の人が「ずるいな～」という声を聞いて「割り込みはいけないよ。」と注意したお話でした。自分に不利益がないと、つついすル～してしまいがちですよ。低学年から、よいことと悪いことの区別をし、よいと思えたことは進んで行おうとする心を育てたいです。2年生の子どもたちは、振り返りの時間にたっぷり今までの自分のことを思い出し、自分の心を見つめなおしていました。よくないことと分かっているけど、人を注意することはとても難しいです。でも昨日の道徳の勉強で、「やっぱりよいことをしたら気持ちがよいなあ。」「すっきりするよね」という気持ちを思い出したり疑似体験したりすることで、これからの自分はどうありたいか考えることができました。



とてもつづやきができるクラスでした。また、学習シートにいっぱい振り返りを書いていました。1年生の先生方が1年たつとこんなにりっぱになるんだと感心されていました。素晴らしい！



おまけ 4年生は小枝を使って共同制作。楽しそうね。



おまけ 3年生はシンボルツリーの一えのきについて、木のお医者さんにお話を伺いました。